

令和 7 年度 宇都宮市立田原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心や健やかな体をもち、自ら考え、取り組み、判断し、新しい時代を創造的に生きる児童を育成する。

- (1) かしこく — よく考え がんばりぬく子ども
- (2) なかよく — すなおで 思いやりのある子ども
- (3) 元気よく — じょうぶで 明るい子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

全教職員の高い資質能力と協働性、家庭・地域との信頼関係を基盤とした、充実した学校経営を実践するための「豊かなふれあいと活力に満ち、笑顔あふれる、魅力ある学校」を目指す。

【目指す学校の具体像】 豊かなふれあいと活力に満ち、笑顔あふれる、魅力ある学校

【目指す教職員像】 自信と誇りをもち、自己の資質能力と協働性を高め続ける教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 居がいのある学校づくり

児童・教職員・保護者・地域・ボランティアなど、学校にかかわる誰もが自己存在感、自己有用感を実感できる学校づくりに努める。

(2) 創意ある教育課程の編成と地域とともにある学校づくり

児童・学校・地域の実態を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた創意ある教育課程を編成し、教育目標の実現に努める。また、伝統ある校風を基盤に、地域学校園や魅力ある学校づくり地域協議会と連携を図りながら、地域の豊かな教育力を生かした教育活動を推進するとともに、地域の声を学校評価に生かし、学校経営の改善に努める。

(3) 生きる力と社会性を育む教育実践

確かな学力と豊かな心、そして健やかな体をバランスよく育成するとともに、個人的資質及び公民的資質の伸長を図る。学校での学びを児童の将来につながることを意識し、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え判断して行動することのできる力」を、カリキュラム・マネジメントを通して全教育活動で育成するように努める。

(4) 自己研鑽と組織的な学校運営の推進

教職員の心身の健康の保持増進を図るとともに、教育の質の向上と児童の健全な成長を目指すため、協働性と自律性のある学校組織力を高めつつ、勤務時間を意識した望ましい働き方を基盤とした学校運営に努める。

[田原地域学校園教育ビジョン]

自立を目指しながら積極的に地域社会と関わる田原っ子の育成

4 教育課程編成の方針

(1) 地域の豊かな自然や文化、人材等の教育資源を最大限に活用し、郷土への誇りや愛着心を育むとともに、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい児童の育成を目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開できる編成に努める。

(2) カリキュラムマネジメントを通して、「自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」、「自らを律しつつ他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心」、「たくましく生きるための健康・体力」等、児童の「生きる力」の育成に重点を置き、学校生活に変化と潤いをもたせるような編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営 ～ 「田原」大好き！ふるさとへの感謝と誇り

たわらプロジェクト「地域とともにある学校づくり」

○地域の自然や文化を教材とした系統的・体系的な学びを通して、ねらいを明確にした特色ある体験活動及び宇都宮学の充実を図り、郷土愛の心を育てるとともに、学校・家庭・地域の三者による組織の活性化と相互協力による教育実践を推進する。

- ・積極的な情報発信や学校公開により、教育活動の理解促進に努める。
- ・地域学校園各部会の連動・連携した教育実践に取り組み、学校力の向上を図る。

(2) 学習指導 ～ わかった！できた！もっとやりたい！わくわくする学びのサイクル

学びのプロジェクト「児童自身が『学びの主体』になる授業づくり

- ・児童の学習状況を的確に分析・把握することにより、個々の学習課題及び学年・学校課題を設定し、「田原っ子の学び」の実践、教師の専門性を生かした教科担任制、少人数指導や一人一台端末等デジタル機器を効果的に活用した授業及び次の授業につながる家庭学習の充実を通して、基礎・基本の確実な習得と活用、及び主体的に学ぶ態度の育成を図る。
- ・読解力や思考力・表現力の育成を目指し、問題解決的な学習や協働的な学習活動、言語活動等、カリキュラム・マネジメントを通し教科横断的な学習活動の充実を図る。

○「宮・未来キャリア・パスポート」を有効に活用することで、児童が自己の変容や成長を実感し、新たな夢や目標につなげたり将来の生き方を考えたりすることができるようにし、主体的に学びに向かう力や自己管理能力の育成を図る。

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究体制を整備し、教職員の授業力・コーディネート力の向上を目指し、PDC Aサイクルによる積極的な授業改善を図る。

(3) 児童指導 ～ 自分大好き、友達大好き、思いやりあふれる学校生活

心のプロジェクト「心の教育の推進」「一人一人が輝く学級づくり」

- ・継続的な自己評価や個人内評価により、自ら規律ある生活を実践する態度を育成する。
- ・学校生活における道徳教育及びその要となる「道徳科」のつながりを工夫する取組を進め、道徳的实践力を向上させるとともに自ら道徳性を追求する力を育成する。
- ・集団的な問題解決活動や、児童相互の認め合い、高め合いが実現できる場の設定、他者と関わる多様な交流活動や体験活動の実践を通して、一人一人のよさが生きる自治的な集団・学級づくりの充実を図るとともに、自信や有用感を高め、自己実現力を育成する。

(4) 健康（体力・保健・食育・安全） ～ 自分自身を見つめて、よりたくましい自分へ

健やかプロジェクト「体力の向上・安全教育」「保健教育・食育の推進」

- ・体育の授業における運動量の確保、休み時間における外遊びの推奨、目標設定とスモールステップによる運動技能の習得と意欲の向上等、体育的活動の充実により体力の向上を図り、健康な生活を実現する力を育む。
- ・児童の実態や傾向の分析・把握をもとに、健康・体力・食に関する指導を統合した健康指導の充実を図り、九年間を通して望ましい生活習慣を身に付けさせる。
- ・学習と生活を関連付けた体験的活動の充実により、学習内容を日常生活に活かすことができる可能性に気付かせ、「自らより健康的で安全な生活を創造する力」「自らの命を守るための危険予測・回避能力」を育成する。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～ B6は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 他者と協力して学習できるよう、学習内容や学習形態を工夫する。</p> <p>② 必要な情報を集めて考えることができるよう、図書資料やICTなどを取り入れた授業を行う。</p> <p>③ 児童が主体的に学習に取り組むことができるよう、児童にとって魅力的な題材を扱ったり、相手意識や問題意識をもって学習できるよう授業展開を工夫したりする。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 97.9%で、指標を 2.9 ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・年度ごとに、児童の肯定的割合が高まってきているので、更に授業展開の工夫していく。</p>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、思いやりの心をもっている。」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 道徳科の授業や豊かな体験活動の充実を図る。</p> <p>② 異学年との活動や、幼稚園、保育所、子ども園、高齢者、地域ボランティア等との交流の充実を図り、学年学級・学校を越えた人とのかかわりを深める。</p> <p>③ 互いに認め合い、思いやりに満ちた学級づくりに努める。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 95.8%で、指標を 0.8 ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳科の授業や様々な体験活動の中で、学校や学級全体の人を思いやって生活しようとする態度や、友達の失敗に対する寛容性を引き続き養っていく。 ・帰りの会で、互いのよさを称賛し合う時間を設定して、互いに認め合い、思いやりに満ちた学級づくりに努めていく。</p>
	<p>A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 各種学校行事や校外学習等の教育活動において、目標の達成や課題解決的な学習過程を重視した指導に努める。</p> <p>② 係活動や当番活動、児童会活動などにおいて、最後まで責任や役割を果たすことのよさに気付かせるようにする。</p> <p>③ 学校農園活動や町探検等の校外学習などにより、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動等に取り組む、キャリア教育の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 92.3%で、指標を 2.3 ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・各種行事や教育活動において、目標の達成や課題解決的な学習過程を重視することで、達成感をより強くもたせるよう努める。 ・系統性のあるキャリア教育の充実に努める。</p>
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 登下校指導の徹底や安全教育の実践等を通して、健康や安全に対する自己管理能力の育成を図る。</p> <p>② 体育的行事における事前練習の充実やたわらの時間の外遊び、検定における目標設定等を通して、体育的活動の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 95.1%で、指標を 0.1 ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・校内では、落ち着いて歩くことを徹底し、安全に生活する態度を育てていく。</p>

<p>1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童の肯定的割合 85%以上</p>	<p>① 自分の特性の理解やよりよい人間関係づくりを通して、主体的に役割を果たしたり、人のために行動しようとしたりする態度を育むために、各教科や特別活動、道徳等との関連を図った学習を展開する。 ② 係活動や当番活動、児童会活動などにおいて、児童一人ひとりが役割をこなし、互いのよさを認め合う場を設けることで、自己有用感を高める。 ③ キャリア・パスポートを活用して、各種行事における自分の成長を記録し、発表し合うことを通して、自他の成長を認め合えるようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 94.4%で、指標を 9.4 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・各活動で、自分自身や友達よかったところを振り返る活動を実施するなど、互いのよさを認め合う場を設けることで、自己有用感を高める。</p>
<p>2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 教員が英語を使うとともに、ALTと連携を図りながら、英語のやり取りを中心とした授業を展開する。 ② ALTとの交流を計画的に実施し、ALTと自由に会話を楽しむことを通して、英語を使ってのコミュニケーションへの関心を高める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 81.0%で、指標を 1 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・指標は上回っているものの、昨年度よりも 6.3 ポイント下回ったので、取組の確実な実施を意識する。</p>
<p>2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A7 児童は、宇都宮のよさを知っている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、宇都宮のよさを知っている。」 ⇒児童の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 生活科や社会科、道徳、総合的な学習の時間において、身近な地域や宇都宮市を教材にした学習を展開する。 ② 市役所職員等ゲストティーチャーを活用した授業や、児童による他学年への情報発信の取組により、宇都宮のよさを実感できるようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 88.7%で、指標を 8.7 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・昨年度よりもさらに肯定的割合が高まっているので、学んだ宇都宮のよさを発信できる機会を設けていくことで、さらに肯定的割合を高めたい。</p>
<p>2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 調べ学習の内容等に応じて ICT や図書資料を活用できるよう、学習環境を整える。 ② デジタル機器や図書資料を学習に使うことができるよう、単元展開や授業展開を工夫する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 90.8%で、指標を 0.8 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・図書館司書との連携を密にし、充実した図書の活用に努める。</p>
<p>2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 緑の日や親子奉仕作業、除草作業など、校内の自然や環境を維持することの大切さを実感させる教育活動に取り組み、環境保護等への意識付けを図る。 ② 地域の協力を得て「探鳥会」を実施し、山田川沿いの自然を味わうことを通して、地域の自然のすばらしさやそれを守ることの大切さを意識させる教育活動に取り組む。 ③ 特別活動や児童会活動を通して、節電、節水、食の大切さ等を意識させるよう努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 89.4%で、指標を 0.6 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・指標を下回ってしまっているが、取組は実施できているため、活動したことや学んだことを、持続可能な社会ということに内容をつなげられるよう支援する。</p>

<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 一人一人の教育的ニーズの把握に努め、個別の支援計画を生かした適切な教育支援を行うように努める（学級内、交流及び共同学習、かがやきルームの活用）。 ② 特別支援学級においては、体験的学びを重視した実践に努める。 ③ 必要に応じてケース会議を開催し、組織的な支援体制を確立して対応するよう努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的割合は100.0%で、指標を10ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も、児童指導連絡会や校内支援委員会といった機会を活用し、児童一人一人の特性を理解できるように努めていく。 ・児童の発達の特性や理解度に応じて、デジタル機器を効果的に活用するなど、個別最適な指導の充実を図る。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 年4回「いじめアンケート」を実施し、結果をもとに担任が教育相談を行い、解決を図る。解決が不十分な場合は、いじめ対策委員会による解決を図る。 ② 年2回の「いじめ根絶強化月間」に合わせ、標語・学級宣言文・個人の意見文を作成・掲示し、個々の児童の意識を高める。 ③ 「いじめ0集会」をHP等で公開するなど、学校及び家庭・地域全体の意識を高める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は97.9%で、指標を2.9ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・引き続き、教職員が連携して、いじめの早期発見、解決に努めていく。 ・実情に応じてケース会議を開催し、組織的な支援体制のもとに問題を早期発見し、早期解決を図っていく。</p>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」 ⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 学習指導や特別活動をとおして、自己肯定感を高める取組を意識的に行うとともに、児童のよさを積極的に評価するなどして、不登校を未然に防止する教育環境を整える。 ② 児童相互の認め合い、高め合いが実現できる場の設定、他者と関わる多様な交流活動や体験活動の実践を通して、一人一人のよさが生きる集団・学級づくりの充実を図るとともに、自信や自己有用感を育むよう努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は97.2%で、指標を7.2ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・学級活動や帰りの会などで、お互いのよさを認め合えるような時間を設定し、学級内での一人一人の自己肯定感を高めていくようにする。</p>
<p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 学級担任をはじめ、多くの教職員が児童一人一人に声を掛けることで、より良い人間関係づくりに努めるとともに、児童が話しやすい環境づくりに努める。 ② 教育相談の機会を生かして、児童の悩みや問題の把握に努め、早期解決に努める。 ③ 学級活動や児童会活動等を工夫し、児童が生き生きと主体的に活動できるよう努める。 ・係活動など学級活動の充実 ・委員会活動など児童会活動の充実 ・縦割り班活動の充実</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的割合は92.2%で、指標を2.2ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・係活動や委員会活動を活発化させ一人一人に役割をもたせたり、教育相談を通して良好な人間関係づくりを行ったりするなど、居がいのある学級経営を充実させる。 ・縦割り班や集会活動等において、児童が主体的に活動する機会を積極的に創出するとともに、ホームページ等を活用し、その様子を積極的に発信する。</p>
<p>4- (1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 「基礎学習の時間」において、漢字・計算・音読・視写等を発達段階に応じて取り入れ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図れるよう努める。 ② 一人一授業研究を行い、「わかる・できる・もっとやりたい」授業の工夫に努める。 ③ 「田原っ子の学び」を継続して、主体的に学習する態度を育てる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は97.2%で、指標を2.2ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・これまで同様、全職員で児童の学習支援にあたり、基礎的・基本的な内容の定着に努める。</p>

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 全職員が学校経営に参画意識をもって、協力して教育に当たるように努める。 ② 学校行事等において役割を明確に分担するなどして、同僚性を発揮しながら取り組むべき業務を設定する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的割合は100%で、指標を10ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・同僚性やチームというキーワードを、常に意識しながら業務に取り組む。</p>
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 児童と向き合う時間を確保するための各種活動・日課の工夫・改善を図る。 ② 学校リフレッシュデーを設定し運用を図る。 ③ ミラ임による出退勤時刻の把握を通じたマネジメントの実践に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的割合は100%で、指標を10ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・ワークライフバランスの実現を目指したり、教職員の意見を生かし各種活動や日課の工夫・改善、業務の簡略化を図ったりしながら、児童と向き合う時間を確保する。</p>
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒5・6年児童の肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 田原中の生徒とともに、あいさつ運動を実施する。 ② 3校の教職員が協力して、小中学校において一貫した学習指導や、保健指導、食育等の取組を実施する。 ③ 運動会や陸上競技大会の練習など、学校行事等において、中学生のボランティアを募り、児童と接する機会を作ったり、オンラインによる交流に取り組んだりする。</p>	<p>【達成状況】 5・6年児童の肯定的割合は100%で、指標を5ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・田原西小や田原中との活動において、児童が地域のつながりやよさを意識して取り組めるよう各学校と連携するとともに、各取組についてのより積極的な発信を図る。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携し、学校・保護者・地域住民が一体となって、教育活動の充実と活性化を図る。 ② 授業ボランティア（地域の外部講師・街の先生）と連携した授業を計画的に実施し、その成果について児童と確認するとともに、広く情報発信する。 ③ 地域人材を活用した「ふるさとの自然や文化に誇りをもち、未来を創る学び」を設定し、系統的なねらいを明確にしながら、豊かな感性と郷土愛を育てる学びの充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童・保護者・地域の肯定的割合の平均は95.2%で、指標を5.2ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・各種活動のねらいをより明確に示して家庭や地域との連携を深めるとともに、取組や成果を学校からの各種たよりやホームページ等で積極的に発信していく。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 保護者や学校施設利用者へ災害時避難方法の周知や児童送迎時の自家用車乗り入れ方法の周知など、危機対応に関する情報を提供する。 ② 全教職員による安全点検を毎月行って、施設・設備の整備・点検を実施し、修繕・補修を迅速に行い、児童や利用者が安全に活動できる環境づくりに取り組む。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的割合は92.4%で、指標を2.4ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・利用者を対象にした体育館に関する連絡会議や、オープンスクール後の安全管理に関するアンケート等を検討し、引き続き安全に配慮した環境づくりに取り組んでいく。</p>

<p>6- (2) 学校のデジ タル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができています。 【数値指標】全体アンケート 「コンピュータなどのデジ タル機器やネットワークの点か ら、授業（授業準備も含む） を行うための準備ができてい る。 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 一人一台端末や実物投影機等の 維持管理の徹底を図るとともに、一 人一台端末におけるデジタルドリ ルやデジタル教科書など学習に必 要な教材・教具の整備等に努め、授 業で効果的に活用できるようにす る。 ② GIGA スクール構想に伴う一人一 台端末の効果的な活用法について、 職員研修や ICT 支援員による支援 等を通して、教師一人一人の研鑽を 深める。 ③ 校務支援システムやデジタル連 絡ツールについて、職員研修等で共 通理解を図り、活用を促進する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的割合は 100%で、指標 を 10 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も 100%が維持できるよう、継続 して取組を行う。 ・一人一台端末の活用を通して、個別最 適な学びを深められるようにしていく。</p>
<p>6 小・中 学校、地域学校共 通、本校 の特色・ 課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時 と場に応じたあいさつをして いる。」 ⇒保護者の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 地域学校園で設定したあいさつ 運動の実施方法を工夫するととも に、PTA 生活指導部が参加するあい さつ運動を実施する。 ② 地域協議会と連携したあいさつ 標語の募集、優秀作品掲示により、 挨拶への関心・意欲を高める。 ③ 「時と場」、「相手」に応じて声だ けでなく目礼や低頭といった「相手 に気持ちが伝わる」あいさつにつ いて具体的に指導するとともに、道 徳においても「礼儀」について自 らの生活を思い起こさせる。 ④ 児童会主体のあいさつ運動や啓 発活動を展開し、一人一人のあい さつへの意欲向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的割合は 91.1%で、指 標を 11.1 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・保護者や地域、中学校とも連携を深 めて活動を実施することで、挨拶への 意欲向上を図る。</p>
<p>6 小・中 学校、地域学校共 通、本校 の特色・ 課題等</p>	<p>B2 児童は、きまりやマ ナーを守って、生活 をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童生徒は、 きまりやマナーを守って、生 活している。」 ⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 学校でのきまりを徹底するため に「田原小のやくそく」や「よい子 の 1 日」を提示し、教職員が共通理 解の下、繰り返し指導する。 ② 児童に「よい子の 1 日」に関す る自己評価アンケートを実施し、重 点項目を決め、それらを常に意識 して学校生活が送れるよう指導す る。 ③ ルールや約束を守る大切さや誠 実に正直に行動するすばらしさ等 について考えを深められるよう、学 級活動や道徳教育、集会活動での 講話などを充実させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 96.5%で、指 標を 6.5 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・各学年で、「田原小のやくそく」や「よ い子の 1 日」ができているかの確認を定 期的に行うなど、年間を通して守れる ようにしていく。</p>
<p>6 小・中 学校、地域学校共 通、本校 の特色・ 課題等</p>	<p>B3 児童は、家庭学習の習 慣が身に付いている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、宿 題や自主学習を進んで行って いる。」 ⇒保護者の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 「家庭学習のすすめ」を通して家 庭の理解・協力を得る。 ② 家庭学習でも一人一台端末を用 いることで、家庭学習に楽しく主 体的に取り組むことができるよう にする。 ③ 模範的な自主学習の内容を紹介 したり、「自主学習のすすめ」を発 行したりすることで、自主学習の 内容の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的割合は 76.5%で、指 標を 3.5 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・指標を下回っているが、昨年度より割 合が高まっているので、継続して取 組を行うことで、改善を図っていく。</p>
<p>6 小・中 学校、地域学校共 通、本校 の特色・ 課題等</p>	<p>B4 児童は運動することの 楽しさや大切さが分かる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、進 んで運動をしている。」 ⇒児童の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① たわらの時間や昼休みは校庭に 出るように声掛けを行う。 ② 運動委員会における〇〇向上プ ログラムを計画的に実施する。 ③ 体育の授業において児童ができた という達成感を味わえるような 授業の展開を考え、実施する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 78.2%で、指 標を 1.8 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・児童が運動の楽しさや大切さをより 実感できる活動づくりを進める。</p>

	<p>B5 児童は、食事のマナーを身に付けている。 【数値指標】全体アンケート「食事のマナーを意識して食事をしている。」 ⇒保護者の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① マナー週間を設定し、意識付けを図る。 ② 担任と栄養士が連携して、児童への声掛けをする。 ③ 「食育だより」を通して、家庭の理解協力を得る。</p>	B	<p>【達成状況】 保護者の肯定的割合は 73.4%で、指標を 6.6 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・家庭での箸の持ち方、食事の仕方等について学校から食育だより等を通して啓発していく。</p>
	<p>B6 本を読むことの楽しさや大切さが分かる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、進んで読書をしている。」 ⇒児童の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 朝の読書(朝の活動)を週2回実施する。 ② ボランティアによるクラスごとの「読み聞かせ会」を、年間を通して計画的に実施する。 ③ 担任による各教科等での本の紹介や、図書館司書によるブックトーク、読み聞かせ等により、読書への関心を高める。 ④ 第3土曜日の「家読の日」において、書籍名やコメント等を記入する記録用紙を工夫するなど、家庭での読書活動を推進する。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 74.6%で、指標を 5.4 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・昨年度より 6.3 ポイント下回り、指標からも下回った。読書活動の時間の確保や、取組の確実な実施が不十分だったことが考えられるため、次年度は取組を全年確実実施する。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・学校運営に関する質問項目については、指標を上回っているものが多いことから、学校・地域・家庭の三者による組織の活性化と相互教育による教育実践を推進し、現状を維持できるよう努めていく。
- ・本校で実施している教育活動について、ねらいを明確にして実践していくとともに、保護者や地域住民の理解を深められるよう、今後もより積極的な情報発信に努める。

○地域学校園における目標・目的の共有化に努め、他校との連携をより図りながら小中学校九年間を見通した教育活動を展開できるようにし、学校力の向上を図る。

【学習指導】

○「宮・未来キャリア・パスポート」や各教科等を通して、自己を振り返る機会を設け、児童が自己の変容や成長を実感したり、新たな夢や目標を見付けたりすることができた。

- ・児童は、授業の中でICT機器や図書等を活用して生き生きと学んでいる。一方で、家庭学習の習慣化や進んで読書をしているかという項目においてやや課題が見られた。学校での取組が伝わるよう、更に情報を発信したり、情報発信の方法を見直したりして、保護者の理解・協力を得られるように働きかけていく。

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、職員研修を通して授業力向上を目指した。成果や課題を見付け、今後の授業に生かしていく体制が取れたことは、大きな成果となった。今後も、一人一人の教職員が児童の成長のために積極的な授業改善を行っていく。

【児童指導】

○きまりやマナーを守っているという意識について、児童の肯定的割合が 96.5%と高かった。今年度は、「頭覆い・下駄箱・名札・挨拶」を合言葉に落ち着いた生活態度を重点目標とし、その具体について児童と話し合いながら週目標の設定やルールづくりを実施した。児童自らが考えて設定しているため、守ろうとする意識が高まり、一人一人が挨拶や生活態度について深く考えて行動する姿が見られた。今年度末にも、「田原小よい子の1日」の中のきまりやマナーに関する項目について自己評価アンケートを実施し、児童自身の規範意識を把握し、重点項目を決め、指導を継続していきたい。また、集会の講話や生活目標の設定などの他に、来年度も学級目標の一つにきまりやマナーに関するものを入れたり、児童会主導の活動を取り入れたりするなどして児童自身の規範意識を高めていきたい。

○時と場に応じた挨拶については、児童、保護者と地域住民の肯定的割合は全て8割を超えた。今後は、「校内ですれちがった時」「通学路で出会ったとき」などの他に、「朝起きたとき」「近所で出会ったとき」といった自分の生活圏に近い場所での挨拶について、具体的に指導していく。

- ・教職員がいじめや不登校を生まないための指導をしているかどうかを問う項目では、本年度も児童の肯定的割合が高く、教職員による指導が学校全体にいきわたっている様子が見受けられる。年4回の学校生活アンケートや年2回の教育相談を継続していきながら、問題の早期発見と解決に努めたい。また、今年

度も、いじめを生まないための活動としていじめゼロ集会を計画し、実りのある集会にすることができた。今後は、オープンスクールやホームページ上で動画の視聴を検討するなど、具体的な取組を積極的に地域に発信していく。

【健康指導】

・学校全体として、休み時間等の外遊びを奨励し児童は活発に活動しているが、放課後や休日についてはあまり運動していない状況が見られるため、更に運動することの大切さについて児童・家庭に情報を発信していく。

・児童の食に関する意識向上を目指し、「食事マナー週間」で給食に関わる全ての人へ感謝の気持ちをもち、食品ロスの観点からも残さず食べることを呼び掛けたり、給食週間に給食に関するクイズなどを行ったりしたことにより、意識の向上が図られたことから、今後も同様の取組を推進していく。

・保健委員会活動で手洗い週間の活動を行い、手洗いの練習やハンカチチェック等、啓発活動を行った。特に感染症の増える冬の時期は、委員会活動等を通して意識付けを図っていく。また、「ぐっすいみんおはよう週間」を設定し、げんきアップカードの活用を通して、家庭でも睡眠の大切さについて関心をもてるようにし、親子で取り組むことができた。家庭や学校外でも年間を通して正しい予防行動を行っていけるように、今後も家庭との連携に努めていく。

7 学校関係者評価

【学校運営】

・学校運営に係る全項目において、児童・保護者・地域とも肯定的割合が向上しているため、今後も維持できるように時代に合った取組を行ってほしい。

・子どもが「学校が楽しい」と言っているため、担任をはじめ、多くの教職員がよく関わってくれていると感じる。

・教職員が協力し合い自信をもって学級運営に携わっていることがよく分かる。

・教職員の肯定的評価が高く、意識改革が進んでいることが伺える。一方で、担任の空き時間がほとんどなく、放課後の限られた時間で授業準備等を行っている状況を考えると、教職員の負担は依然として大きいのではないと思う。働き方改革の取組を継続し、教育の質の向上につなげてほしい。

【児童指導】

・保護者や地域の評価は80%台にとどまっている。児童が学んだ内容や学校生活での出来事などを家庭でも話題にするなど、学校と家庭が同じ方向性で子どもを支えていくことが今後更に大切になると感じた。

・挨拶が聞き取りにくい児童がいる。自主的に挨拶できるよう指導してほしい。

・児童一人一人が自分のよさを理解し、友達のよさも理解し、お互いに認め合っていることがよく分かり、大変すばらしい。

・いじめに対する指導に関して、保護者の評価が低いことが気になる。学校の活動を保護者にもっと知ってもらうことが必要だと感じる。

・友達同士の言葉遣いやきつめの言い方が気になっている。

【健康指導】

・少子化の影響もあるのか、校庭や地域で屋外活動をする姿が減っているように感じる。子どもの頃の多様な遊びや体を動かす体験が、その後の運動能力の基盤になると言われている。また、近年は運動会が午前開催となり、保護者が参加する種目がない。安全面や運営面での工夫ということは理解できるが、子供が大人と一緒に体を動かす経験のあり方について、改めて考える必要がある。

・運動、健康、食に関しては課題が残っていると感じるが、夏の猛暑や習い事・パソコンを使っただけの学習の強化など、今の時代とどのように折り合いをつけるか難しいところだと感じる。

・子どもたちが運動をする機会を作らなければ自分たちで運動したり遊んだりしないことが課題である。

・運動に関しての児童の評価が昨年よりも低下していて、更なる指導の充実と学校の活動の保護者への周知も必要。

・児童自らが食事のマナーに関心を持ち、意識して食事をするのはなかなか難しい。学校だけでなく家庭においても児童の食事マナーを育ててほしい。

【学習指導】

・子どもの音読を聞くことも大切だが、保護者も進んで子どもに読み聞かせをしてほしい。

- ・学習面について全体として高い評価になっていて、教職員が日頃から熱心に取り組んでいる成果が表れていると思うが、読書に関してはSNSが広がっている中でとても重要になってくるものなので、継続した指導が必要である。
- ・英語については、昨年度より児童の評価が下がっている点から、ALTとの関わり方や英語を使う楽しさを実感できる機会のあり方に課題があるように思われる。
- ・持続可能な学びに関しては、資源物回収や探鳥会、地域学習、「かわちガイドブック」の活用など、多くの実践が行われていることから、これらの活動を児童の生活や地域の未来と関連付けて考える機会を意識的に位置付けることで、関心や理解がより深まると感じる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・校長の学校経営理念のもと、継続的な取組を重ねてきた結果、成果が現れてきていることから、基本的に次年度も今年度の取組を継続していく。
 - ・児童の健全育成のためには、家庭・地域との連携が必要不可欠なため、学校での取組を理解していただけるよう、工夫して情報公開に努めていく。
 - ・学校が保護者や地域の方から多くの協力を得て、児童自身が住む地域について学べることは児童にとっても地域にとっても有意義なことであるので、各種教育活動等のねらいを明確にして、今後も取組を継続するとともに充実させていく。
- 今後も学校と家庭、地域が目的を共有しながら連携した取組を充実させることで、児童の心身ともに健やかな成長を目指していく。